



カリオン

Vol. 4



2007年10月

発行 姫路赤十字看護専門学校
発行責任者 学校長 鍋山 晃
編集責任者 事務部長 船田 理
〒670-0063 姫路市下手野1-12-2
TEL番号 079(294)2251(代表)

トレーニングセンター



7月18・19日の2日間、山崎町学遊館においてトレーニングセンターを開催しました。本訓練は、事前準備から学生が自主的に運営するのが特徴です。また、日本赤十字社兵庫県支部の協力を得た本格的な災害救護訓練でもあります。

1日目は、テント設営・担架の取り扱い・無線機の取り扱いなど基本技術の訓練を受け、2日目には、地震災害を想定し、クラスⅡは救護班を編成して救護活動に当たります。傷病者役(クラスⅠ)のリアルな演技に戸惑い、トリアージの責任の重さに手が震えながらも、全力で応急処置を実施しました。訓練終了後は「力の限り頑張れた」「感動した」と達成感を口々に漏らしていました。

(専任教師：糟谷 緑)

後期行事予定

- | | | |
|------------|---|--|
| 10月 | 1日(月)～クラスⅢ院外実習
9日(火)～12日(金)クラスⅡ日本赤十字社本社訪問およびレクリエーション
24日(水)クラスⅠ戴帽式・戴帽を祝う会 | |
| 11月 | 6日(火)7日(水)クラスⅡ保育所実習
21日(水)クラスⅠ「こころのケア」シンポジウム参加 | 8日(木)関西看護学生研究大会クラスⅡ参加クラスⅢ1名発表
27日(火)球技大会 |
| 12月 | 3日(月)～28日(金)平成20年度入学試験願書受付 | 25日(火)～冬季休業 |
| 1月 | 8日(火)9日(水)クラスⅢ技術演習
15日(火)～クラスⅢ特別講義 | 16日(水)17日(木)平成20年度入学試験
29日(火)30日(水)クラスⅠ基礎看護学実習Ⅰ-2 |
| 2月 | 1日(金)～13日(水)クラスⅠ基礎看護学実習Ⅰ-3
27日(水)卒業を祝う会 | 24日(日)第97回看護師国家試験
29日(金)クラスⅢ卒業式 |
| 3月 | 20日(木)～春季休業 | 26日(水)国家試験合格発表 |

姫路赤十字看護専門学校教育理念

「人道」

赤十字における看護基礎教育のねらいは、赤十字の基本原則である「人道」を基盤に、看護の分野において社会の要請に応え得る、豊かな人間性と看護に関する幅広い能力を兼ね備えた看護の実践者を育成することにある。赤十字は、国際的な視野に立って人の命を守り、個人の尊厳と権利を尊重する。その看護活動は、国籍・人種・信条・政治および社会的立場のいかんにかかわらず、人々のあらゆる健康レベルに応じて健康上の問題が解決されるよう支援することである。複雑な要因に影響される健康問題は総合医療活動として包括的、組織的に取り組まれるようになってきている。この保健医療福祉活動の一環を担う看護の機能は、個人のみならず家族、集団、コミュニケーションへのアプローチへと拡大するとともに、より専門的な実践と調整的役割が期待されている。

したがって赤十字における基礎教育終了時には、保健医療福祉システムの一員として、また国内外における赤十字活動の要員として、個人を尊重した看護活動ができる基礎能力を有し、将来看護の発展に貢献できる看護実践者の育成を目指すものである。



【目的】

「人道」「公平」「中立」「独立」「奉仕」「単一」「世界性」の赤十字の基本原則に基づき、殊に最高原則である「人道」を基調として、専門職者である看護師の責務を果たすために必要な能力を開発する。

【目標】

1. 看護の対象である人間を総合的に理解する。
2. 健康状態や生活の場に応じた基礎的看護が実践できる。
3. 看護の実践は「安全」で「安楽」を第一義とし、医療事故を未然に防止する。
4. 看護師として他の保健医療福祉チームと協働する基礎的能力を身につける。
5. 看護の実践に際しては、日本看護協会が規定する「看護者の倫理綱領」をよく理解し、遵守する。
6. 赤十字の基本原則を理解し、国内外を問わず赤十字の諸活動に高い関心をもち、また積極的に参画する。
7. 専門職者としての自覚と誇りを持ち、自己啓発する。
8. 効果的な人間関係を築くための基本的能力を身につける。

トレーニングセンターに参加して



私はこのトレーニングセンターを通して、主体的に取り組むことの重要性を改めて感じました。自分が動くことによって、客観的に見ては気付かなかった、楽しさや驚きが見えてきました。また、昨年は台風で訓練が中止となったため、今年は誰もが初体験という不安の中での実施でした。一人一人が自分のできることを探して協力していく姿や、不安を少しでも軽くできるように自分が納得できるまでお互いに質問したり教えあったりしている姿がとても印象的でした。

(クラスⅡ)

私にとって今回のトレーニングセンターでの経験は、傷病者の視点から考えられる、よい経験となりました。

傷病者として救護訓練に参加して、助けを呼んでいる声が救護員に聞こえていないこともありました。自分ではどうすることもできない状況では、本当に怖くどうしたらいいのか混乱してしまうのだなと実感しました。



今回の経験を通して、少しでも傷病者の気持ちに近づくことが大切だとわかりました。

(クラスⅠ)

ナイチンゲール祭



フローレンス・ナイチンゲールは、イギリス人で大富豪の両親の旅行中、1820年5月12日イタリアのフィレンツェに生まれました。クリミア戦争で傷ついた兵士たちを、ランプを持って癒したことから「ランプを持った淑女」と呼ばれるようになりました。そこで、5月12日には姫路赤十字病院でキャンドルサービスを行なっています。

ナイチンゲール祭は大きなイベントです。ナイチンゲール祭を、最高の思い出になるように頑張ろうと思い臨みました。

病棟で、キャンドルサービスを行い歌を歌わせてもらいました。患者さんが、私達学生が作った歌詞カードをみながら一緒に歌ってくれたり、ペンライトをふってくれたのでとても嬉しかったです。

救護看護婦像前でみんなが手にペンライトを持ち歌いながら輪になった時は、みんなの心が一つになったような気持ちになりとても感動しました。

(クラスⅡ)

キャンパスだより

クラスⅠ

救急法を学んで本当に良かったと思う。AED（自動体外式除細動器）のことさえろくに知らない私であったが、命を助けることができる技術を学ぶことができたからだ。救急車が辿りつくまでの短い時間だが、そこでできることはとても大きいことを知った。

この授業で「技術」は習ったので、これから、いざという時のために実践できる「心構え」を自分の中で培っていきたい。

(クラスⅠ)



クラスⅡ



小児看護概論では、自分達で実際に人工乳の調乳や離乳食の試食、（人形での）乳児の抱き方やおむつの交換といった演習をしました。途中、戸惑った時にはクラスの人達に教えてもらいながら、ただ講義を聴くだけではない、確かな知識や技術を得ることが出来ました。これから先の講義や実習にも、クラス皆で協力して、看護師という目標に向かって成長していける様に努力していきたいと思います。

(クラスⅡ)



クラスⅢ

クラスⅢは、夏季休業明けにケースレポートの発表会がありました。

私は言語障害と尿失禁のある患者との関わりを振り返りました。実習中は意思疎通がうまくはかれないこともありましたが、「患者をもっと知りたい」「不快な思いをせず過ごしてほしい」と思うことで、少しの反応から何を伝えたいのかを考え関わる事が出来ました。また、ケースレポートをまとめることで、実習中には見えなかった患者の想いに気付くことが出来ました。これからも患者が『その人らしく』過ごせる、『私らしい看護』をしたいと思いました。

(クラスⅢ)





オープンキャンパス

受験希望の方に、学校のことを知っていただくために、毎夏オープンキャンパスを実施しています。8月2日・9日・16日(木)、延べ120名の方が参加されました。施設見学はもちろん、肺の聴診や血圧測定の実験、実習室での技術練習見学、質問コーナーなど、在校生もボランティアで活躍してくれました。



聴診の体験



質問コーナー

(写真掲載の承諾を得ています)

オープンキャンパスに来校された皆様の案内係のボランティアに初めて参加しました。緊張して上手く説明できないことや、スムーズに進められないこともありました。しかし、参加された高校生や保護者の方々は真剣に話を聞き、また質問も沢山して下さいました。

私たちの学校に興味を持ってオープンキャンパスに来て下さったので、学校のことをもっと知ってもらいたいと思ったし、学校のことをもっと伝えたいと感じました。

夏季休業中の暑い日でしたが、充実した1日になりました。

(学生自治会会長・クラスⅡ)

学会発表

第8回日本赤十字看護学会が、平成19年6月16日(土)17日(日)愛知県にある日本赤十字豊田看護大学で開催され、学校からは3題発表した。私は「新卒時の看護技術修得レベルの実際～新卒者自身の評定と臨床側の評定の比較～」について発表した。新卒者が「ほぼ一人でできる」と評定している看護技術は、いわゆる日常生活援助技術に分類される13項目であった。それに対し、新卒を指導する立場にある臨床側が、「ほぼ一人でできる」と評定している看護技術は皆無であり、「できる」の判断基準の相違が推測された。今後は評価基準を明確にし、「できていない」技術も自信を持って

できるようになり、臨床に羽ばたいていけるように指導していきたいと思う。

(専任教師：松井 里美)

第8回日本赤十字看護学会

平成19年6月16日(土)17日(日)

日本赤十字豊田看護大学

○発表者：松井 里美

「新卒時の看護技術修得レベルの実際
～新卒者自身の評定と臨床側の評定の比較～」

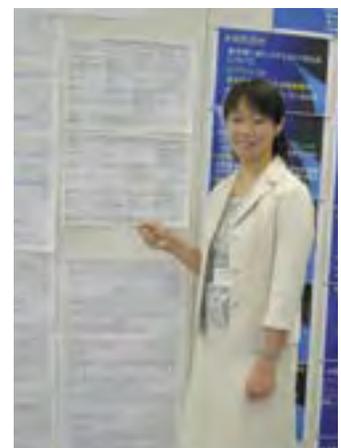
○発表者：名村 かよみ

「新卒時に身につけておくべき看護技術修得レベル
～新卒者自身の認識と臨床側の認識の比較～」

○発表者：柳原 典枝

「新卒看護師が身につけておくべきもの
～新卒看護師の認識と臨床側の認識の比較～」

*以上は本学会助成金を受けて実施しました。



海外研修



平成19年6月3日(日)より8日(金)まで、オーストラリア医療視察研修に参加しました。当院から、健診課長、薬剤師、看護師2名と一緒に、全国より8医療施設、総勢31名の参加者でした。

シドニーのロイヤル・プリンス・アルフレッド病院とゴールドコーストのプリンセス・アレクサンドラ病院の2病院を視察しました。

医療は公立病院では国民健康保険のメディケアを利用すれば、無料もしくは安い費用で受けることができますが、医師を選択できず、手術等も長く待たされることもあります。民間健康保険に加入すれば、私立病院での治療

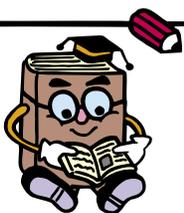
や医師の選択もできます。受診する場合、まず一般開業医(GP)の診察を受け、専門医を紹介してもらいます。

看護師の教育はすべて大学で行なわれ、履修年数は3年間です。国家試験はなく、卒業と同時に免許が得られます。新卒看護師は病院実習期間が短いため、1年間の臨床研修を受けます。免許は毎年の更新を必要とし、生涯学習としての継続教育は多様に準備され、研修や休暇も自由に取れる体制の整備がされています。

プリンセス・アレクサンドラ病院は、850床で従業員数5,000人を超え、その内2,000人以上が看護師です。ほとんどの看護師が自分の専門領域を持ち、ナースプラクティショナーは医師と相談して薬の処方もできます。

オーストラリアの気候は日本とは反対で、6月は日本の11月下旬程度。しかし、陽射しは強く、眩しいくらいでした。皮膚癌が多い理由も納得できました。陽気で親切な国民性、オペラハウスやハーバーブリッジ等の名所、ブルーマウンテンズ等の豊かな大自然も満喫しました。

(教務主任：柳 めぐみ)



図書ニュース

本校では、平成15年度より、学校用図書管理システム「図書丸」を導入し、バーコードスキャナによる図書の貸し出し、返却処理を行っています。書籍の検索も簡単にでき、蔵書冊数や分類グラフもすぐに出すことができます。

また、従来年2回行っていた蔵書点検は、「図書丸」導入前までは多人数で何日もかかって行っていたが、現在はスキャナにバーコードを読み込ませるだけで、短時間で行うことができるようになりました。

(事務係長：尾形 治美)



講師紹介



昭和43(1968)年、姫路赤十字病院に就職以来、約40年、当校の講師をしています。今は医学概論と看護歴史の担当です。講義によって、医療とは何かということをもっと興味を持って、広い視野から学んでもらえるようにと懸命に努力しています。

“教えるとは共に未来を語ること”必ずや21世紀の看護の中心を担うであろう学生の皆さんと一緒に医療について語りあえることを幸せに思い感謝しています。

(元 姫路赤十字病院副院長)
(現 姫路田中病院皮膚科医師)

成人看護学の運動器の講義を担当している整形外科の青木です。早いものでこちらの看護学校で教え始めてから7年になります。教科書の内容は改訂を経るごとにどんどん高度になり分量は増えています。それに反比例して授業時間は減ってきていますので授業はどうしても駆け足になります。形態の異常が主体となる整形外科疾患を理解するためには、教科書だけでは不十分と考えなるべく臨床のスライドを見せるように心がけていますが、時間的制約で困難になってきました。今後は授業をスムーズに進めるために皆さんにも協力していただきたいと思っています。具体的には教科書の予習・復習をしていただきたいと思っています。そして、授業中にどんどん質問してもらいたいと思っています。



(姫路赤十字病院整形外科部長)



「成人看護学援助論Ⅱ－内分泌障害－」の講義を担当させていただいています。退屈な講義にならないよう、学生参加型の講義を心がけています。みんなも一生懸命取り組んでくれて、私の方が勉強になることもたくさんあります。若いみんなのパワーをもらいながら、お互いが刺激し合える場としていきたいと思っています。未来のある皆さんの成長が楽しみです。これからもよろしくお祈りします。

(姫路赤十字病院7階東病棟師長)



歴史シリーズ

『学校のピアノ』

看護学校のエントランスホールにあるピアノは、昭和28年製造のヤマハグランドピアノ(製造番号51576)である。昭和27年に施行された新制度看護教育カリキュラムに導入された音楽の教材として、整えられたものと聞いている。学生時代には、音楽の授業以外にもこのピアノの音色に励まされ、今も懐かしく思い出す人は多いはずである。

(副学校長：榊山 たみ子)





奉仕団活動報告 施設訪問班

施設訪問班は、毎月第2・第4土曜日に活動しています。介護老人保健施設「しおさきヴィラ」に伺い喫茶のお手伝いをしています。入所者の方々の車椅子を押したり、飲み物・お菓子の配膳を行ったりしながら交流や会話ができ、貴重な体験ができる場となっています。

(クラスⅡ)

委員会活動報告 文化委員

私たち文化委員は、展示を通して季節や行事などを意識し、また様々な事に興味・関心をもて、楽しみながら活動しています。私は二年生になって初めてこの文化委員の活動を経験しました。先生方や在校生の皆さんに協力を得ながら自分たちで企画し、表現や飾り付けを工夫し、メンバーで意見を交換しあい、とても充実した時間を過ごすことができたと思います。

(クラスⅡ)



7・8月はオープンキャンパスに来られる方に向けて、学生や先生方のメッセージを集めた掲示物を作成しました。活動を通して季節や文化に触れる事ができ、学校の雰囲気明るく楽しくなればと考えています。

(クラスⅠ)

サークル活動 運動好会



運動好会では、主に病院職員の方と一緒にバレーボールの練習をしたり、大会に出場しています。長期休暇には学年間の交流を深めるため、バーベキューなどを企画し、実施しています。また現在は運動好会のTシャツ作りを計画中です。さまざまな活動を通して、学生同士はもちろんのこと、病院職員の方々との交流が図れるようなサークルにしたいと思っています。

(クラスⅢ)



最新の医療ニュース

「内診業務について」

内診の実施は保健師助産師看護師法第3条で規定する助産であり、助産師または医師以外のものが行ってはなりません。その内診を看護師や准看護師が行った神奈川県内の病院に対し、昨年、横浜地検は不法であると判断しました。日本看護協会は、妊産婦とその家族のニーズに応じた安全かつ快適なお産を保証し、自らの資格・身分を守るためにも、自己の免許に伴う法的責任を正しく認識し、これを超える業務の実施を求められた場合には、明確に拒否を表明することが重要としています。皆さん、免許の法的責任を正しく理解していますか。

(専任教師・助産師：西谷 由子)

フィジカルアセスメントモデルPhysikoのお知らせ



2007年度赤十字施設機能充実支援事業の一環として、日本赤十字社兵庫県支部よりPhysiko(以下「フィジコ」)が整備されました。

フィジコの特徴は、コンピューターと連動して、総合的にフィジカルアセスメントの基本診察手順を学ぶことです。パソコンには、患者モードとして心筋梗塞・肺梗塞・脳圧亢進状態・イレウス・下痢・腸炎・心不全などの患者のデータが登録されています。また、瞳孔反射・血圧測定・心音聴診・呼吸音聴診・腸音聴診・心電図について、正常・異常所見を体験しながら学習することができます。講義以外にも自主学习として活用していきましょう。(専任教師：田畑 淑子)

健康講座 「女性に多い貧血について」



女性の4割は貧血予備軍、さらには40歳以上の女性の7人に1人は貧血であるというデータがあります。女性に多く見られる貧血は「鉄欠乏性貧血」であるといわれています。その理由として、下記のことが挙げられます。

- ①月経や出産時の出血など、鉄分を失う機会が多い。
- ②成長期、妊娠・授乳期に必要な量が増える。
- ③ムリなダイエットで、摂取量が不足する。

鉄分を多く含む食品は豚レバー、鶏レバー、豆腐、ほうれんそう、小松菜などです。鉄分の多い食品、多くとれる食品を選び、毎食しっかり食べましょう。

(専任教師：名村 かよみ)

季節の花々

中庭に月下美人が咲きました。月下美人の花は一夜の命。月に照らされた花の香りと美しさは、まさに月下美人です。

(専任教師：糟谷 緑)



戴帽式のお知らせ

109回生の戴帽式を10月24日(水)姫路赤十字病院3階の多目的ホールで挙行します。又、午後2時より、「赤十字国際救護活動の実際について」(仮題)と題して、母院の看護師長、高原美貴氏による講演会を開催致します。保護者の皆様もどうぞご参加下さい。

(教務主任：柳 めぐみ)

編集後記

暑い暑い夏が終わり、実りの秋を迎えました。稲穂が実るほどに、暑い夏の間お世話をされた方々に頭が下がる思いです。この秋は、今一度お世話して下さった方々に感謝しつつ、秋の恵みをいただきたいと思えます。カリオンもVol.4を迎えました。原稿をお寄せいただいた方々に心よりお礼申し上げます。

(専任教師：名村 かよみ)

——— カリオン編集委員 ———

樺山 たみ子 柳 めぐみ 名村 かよみ 糟谷 緑
田畑 淑子 西谷 由子 尾形 治美

